

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A002011 |
| 講義名 | アスレティックトレーナーの役割 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 5 時限 |
| 科目分類・分野名 | 総合領域 |
| 科目ナンバリング | A2-2709 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |

担当教員

吉田隆紀、中尾哲也、山口由美子、内田靖之、寺岡祐助、増田研一

講義の目的

スポーツの現場では様々な職種の間が携わっているが、その中でも特にアスレティックトレーナーの役割について講義を行う。世界各国のアスレティックトレーナーの起源や歴史的背景、選手を取り巻くサポートスタッフとの連携、組織運営と管理、倫理規定などを学習することにより、アスレティックトレーナーが担うべき任務や役割・業務について理解を深めることを目的とする。

到達目標

アスレティックトレーナーの活動内容を理解し、見学実習や現場実習での自らの行動をイメージできるようになる。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーとは
2. スポーツ外傷・障害の予防
3. スポーツ現場における救急処置
4. アスレティックリハビリテーション
5. コンディショニング
6. 測定と評価
7. 健康管理と組織運営
8. 各スポーツ競技の特徴とAT①
9. 各スポーツ競技の特徴とAT②
10. 各スポーツ競技の特徴とAT③
11. 各スポーツ競技の特徴とAT④
12. 各スポーツ競技の特徴とAT⑤
13. 医科学スタッフとの連携・協力
14. コンディショニング 評価シートの作成
15. ATの倫理

成績の評価

定期試験の結果により評価する。

自己学習

スポーツ現場でのトレーナーとしての考えについて教授するため、スポーツのルールまた基本的な解剖学、生理学の知識を再度、学習しておいてください。加えて1年生から多くのスポーツに触れて、積極的にスポーツ現場を見学することで本授業への関心を深めて学習してほしい。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目・JATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格・公認トレーニング指導者受験資格が認められませんので、注意してください。

テキスト

日本体育協会公認テキスト①
アスレティックトレーナーの役割

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10～13:00

研究室

研究診療棟3F 305号室 吉田隆紀

授業用E-mail

t.yoshida@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A029011 |
| 講義名 | トレーニング科学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-3004 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 滝瀬 定文 | 指定なし |

担当教員

滝瀬定文

講義の目的

トレーニングに対する各種エネルギー供給能力や運動器の代謝調節系、構成細胞の反応、適応メカニズムを系統的に論じ、実践的トレーニング法や評価法に関する知識と理解を深める

到達目標

健康の維持増進及び体力、競技スポーツのパフォーマンス向上に関連したトレーニング法や身体のトレーナビリティの仕組みを学習し、実践的なトレーニング法の理解と測定データの解釈・評価ができる知識を養うことを到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. トレーニング科学について（体力トレーニングの基本原則）
2. 持続的運動とトレーニング
3. 間欠的運動とトレーニング
4. 循環系とトレーニング
5. 水分調節とトレーニング
6. トレーニングと疲労、休養
7. 発育発達とトレーニング
8. 女性とトレーニング
9. 加齢とトレーニング
10. トレーニングと骨密度、骨リモデリング
11. トレーニングに対する筋・骨格系のトレーナビリティ
12. 水中環境とトレーニング
13. ジュニア競技選手のトレーニング
14. スポーツ種目別トレーニング
15. 試験

成績の評価

15%

15%

70%

平常点（ ）、授業毎のレポート課題（ ）、期末試験（ ）の成績を総合的に評価する。

自己学習

授業毎のレポート課題や配布資料をもとに講義内容の疑問点を復習し、次回の授業までに整理しておく。また、日常のスポーツ活動やトレーニング、運動部活動で各種トレーニング法を実践し、自分自身の身体や体力・コンディショニングを考える習慣を身につけることが望まれる。

履修上の注意

「トレーニング指導者（JATI）」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。詳しくは、巻末を参照して下さい。

テキスト

授業内容の必要に応じて資料を配布する。

参考文献

- ① トレーニングによるからだの適応-スポーツ生理学トピックス-（杏林書院）2002年
- ② 「トレーニング生理学」（杏林書院）2003年
- ③ 「運動生理学のニューエビデンス」（真興交易（株）医書出版部）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A037021 |
| 講義名 | リハビリテーションプログラミング実習 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 5 時限 |
| 科目分類・分野名 | 総合領域 |
| 科目ナンバリング | A2-2619 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 内田 靖之 | 指定なし |

担当教員

増田研一
吉田隆紀
山口由美子
中尾哲也
寺岡祐助
内田靖之

講義の目的

スポーツ現場に於ける検査／測定と評価実習、プログラミング作成実習を統合できること。

到達目標

アスリートの測定と評価、スポーツに関するリハビリテーションの知識を現場で応用可能になること。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックトレーナーに必要な評価
アスレティックトレーナーに必要とされる評価についてその意義と考え方を学び、具体的な評価による問題点の抽出までのプロセスを理解し、実践できる能力を習得することをねらいとする。
2. スポーツ動作の観察と分析
評価を進める上で必要となるスポーツ動作の観察・分析について、その目的と意義を理解し、バイオメカニクス、動作に影響を与える機能的と体力的要因を説明できる能力を習得し、競技者に対して伝えることができるようになることを目的とする。
3. 競技特性に合ったコンディショニングプログラムの立案と実施
評価、動作観察と分析をもって得られた情報をもとに、競技特性に基づいたコンディショニングプログラムの立案と実施ができるようになることをねらいとする。
4. 傷害予防のためのアプローチ、そのための環境作りの実践
評価、動作観察と分析をもって得られた情報をもとに、傷害予防の方策を見だし、スポーツ現場の環境整備を推進し、実践できるように実習をすすめていく。

5. リハビリテーションプログラムの立案と実施

評価、動作観察と分析をもって得られた情報をもとに、競技者に対して適切なアスレチックリハビリテーションプログラムを提供できるようになることを目的とする。

6. 企画立案とプレゼンテーション

プログラミングに際して得られた知見や情報を、競技者もしくは付随する関係者に対してプレゼンテーションを行う能力を培う。医療カンファレンスの側面を取り入れて、正確な知識と技術の発揮を目的とする。

上記内容を学内実習・学外実習を取り混ぜて行い、アスリートやレクリエーションレベルのスポーツ愛好家まで幅広く実践力を高めることを目的とする。

成績の評価

実習態度や取り組み、後期末に行うプレゼンテーションなどをもって総合的に評価する。

自己学習

これまでに学習してきた全てをもって実習に臨んでください。

履修上の注意

原則として遅刻／欠席は認められない。学外での実習を含みます。

テキスト

日本体育協会公認指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ、公認アスレチックトレーナー専門テキスト1～9

参考文献

適宜、指示します。

研究室

吉田隆紀（診療研究棟3階305研究室）
山口由美子（診療研究棟4階415研究室）
中尾哲也（診療研究棟4階412研究室）
寺岡祐助（診療研究棟3階教員室）
内田靖之（診療研究棟3階311研究室）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A038011 |
| 講義名 | リハビリテーション概論 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2106 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 中尾 哲也 | 指定なし |

担当教員

中尾 哲也

講義の目的

リハビリテーション、障害の意味および内容について知る。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. リハビリテーションの概要
2. 障害の捉え方
3. 医学的リハビリテーションの概要
4. リハビリテーション評価の方法
5. リハビリテーション評価の方法
6. 四肢長、周囲径
7. 関節可動域テストの概要
8. 関節可動域テストの概要
9. 徒手筋力テスト
10. 徒手筋力テスト
11. 徒手筋力テスト
12. 運動療法の意義と基本的な運動療法
13. 運動の協調性テスト、運動麻痺の評価
14. 日常生活動作の評価とアプローチ
15. 高次脳機能評価とアプローチ、治療体操、物理療法、作業療法など

成績の評価

授業内レポート、および学期末試験などにより評価します。

自己学習

解剖学、生理学の知識が不可欠ですのでしっかりと学習しておいてください。

履修上の注意

提出するレポート用紙（ルーズリーフ可）を個人で準備する。

テキスト

「リハビリテーション医学」 （医歯薬出版）

参考文献

「臨床医学各論」 （医歯薬出版）

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階（412）

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A060011 |
| 講義名 | 運動器の解剖と機能 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-3003 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |

担当教員

吉田隆紀

講義の目的

アスレティックトレーナーという職業において体表解剖の理解は必須である。本講義では、アスレティックトレーナーが行う、選手の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解する。そのため、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。

到達目標

アスレティックトレーナーとして、機能解剖学的な視点をもって関節運動を理解する。そしてスポーツ動作を論理的思考によって観察できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 運動器の解剖と機能概論①
2. 運動器の解剖と機能概論②
3. 運動器の解剖と機能概論③
4. 体幹の基礎解剖と運動 頸部
5. 体幹の基礎解剖と運動 胸部
6. 体幹の基礎解剖と運動 腰部
7. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節①
8. 上肢の基礎解剖と運動 肩関節②
9. 上肢の基礎解剖と運動 肘関節
10. 上肢の基礎解剖と運動 手関節
11. 下肢の基礎解剖と運動 股関節
12. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節①
13. 下肢の基礎解剖と運動 膝関節②
14. 下肢の機能解剖と運動 足関節
15. 復習

成績の評価

定期試験の結果により評価する。

自己学習

解剖学で学習した用語や運動学で使用される用語を頻回に授業の中で使用します。できるだけ授業内容と一致する部分の解剖学の予習を勧めます。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目・JATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格・公認トレーニング指導者受験資格が認められませんので、注意してください。

テキスト

日本体育協会公認テキスト②
運動器の解剖と機能

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00

研究室

研究診療棟3F 305号室 吉田隆紀

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A066021 |
| 講義名 | 英語表現法Ⅱ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1303 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 教員 | ◎ 木村 研一 | 指定なし |
| 非常勤 | 入交 重雄 | 指定なし |

担当教員

木村 研一（前期）、入交重雄（後期）

講義の目的

西洋医学に東洋医学などの代替医療を併せて治療を行う統合医療の時代に変わりつつあります。この流れは日本だけでなく、アメリカ、ドイツなど世界的に広がっています。また、医学、医療に関わる研究、論文のほとんどは英語で書かれており、外国の医師や鍼灸師とコミュニケーションする際にも英語は必要不可欠です。本科目では東洋医学、特に鍼灸や漢方薬、薬膳の基礎を理解しながら英語を学ぶことを目的としています(木村)。

医療英語の運用能力を高めること。(入交)

到達目標

鍼灸や漢方薬、薬膳に関する基礎的な知識と語彙の習得を目標とします(木村)。

医療英語に慣れ親しみ習得すること。(入交)

授業計画表

授業計画

前期（木村）

1. 東洋医学の歴史
2. 陰陽五行説
3. 五臓・六腑
4. 気血津液
5. 経絡・経穴
6. 鍼灸治療
7. 治療で用いる鍼
8. 肩こりの鍼治療
9. 痛みに対する鍼治療
10. スポーツ鍼灸
11. 美容鍼灸
12. 漢方薬1

13. 漢方薬Ⅱ
14. 薬膳
15. 海外における鍼灸事情

後期（入交）

1. オリエンテーション、総合医学英語テキスト発熱
2. 総合医学英語テキスト 発熱
3. 総合医学英語テキスト 貧血
4. 総合医学英語テキスト 貧血
5. 総合医学英語テキスト 脱水症
6. 総合医学英語テキスト 脱水症
7. 総合医学英語テキスト 肥満
8. 総合医学英語テキスト 肥満
9. 総合医学英語テキスト 頭痛
10. 総合医学英語テキスト 頭痛
11. 総合医学英語テキスト 胸痛
12. 総合医学英語テキスト 胸痛
13. 総合医学英語テキスト 咳
14. 総合医学英語テキスト 咳
15. 総括

成績の評価

定期試験の試験結果により評価します。

自己学習

授業に際して、予習と復習をしてください。(木村)

テキスト内容の音読、CD/ダウンロード音声のリスニング。(入交)

履修上の注意

英和辞書を持参してください（電子辞書も可）。

必須科目のため、出席に注意してください。

テキスト

- ・「東洋医学で英語を学ぶ」（医歯薬出版）高木久代、木村研一、西村甲、高木健
- ・総合医学英語テキスト Step1 (メジカルビュー)2016年

参考文献

特になし。(木村)

医学英語 Communication & Writing 能力アップ!、日本医学英語検定試験³・4級教本 2015年(入交)

オフィスアワー

火曜日 (12:00～13:00)

研究室

診療・研究棟4階 414研究室 (木村)

授業用E-mail

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A069011 |
| 講義名 | 衛生・公衆衛生学Ⅰ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-4001 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 宮本 邦彦 | 指定なし |

担当教員

宮本 邦彦

講義の目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境のなかで扱う学問であり、その内容は、社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、健康増進をはかり、生活の質を高く保つ実践活動とそのため知識や技術を高めることである。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から健康をとらえ健康増進を図るための基本的な手法や疾病の予防を学ぶ。

到達目標

衛生・公衆衛生学の基本的な理論および疫学の方法論を理解する。また、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子や主な疾病の予防対策などを理解する。

授業計画表

授業計画

1. 衛生学・公衆衛生学序論
2. 疫学1 疫学とは 疾病量の把握
3. 疫学2 疫学の方法 コホート研究と症例対照研究
4. 疾病予防と健康管理 疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理 健康増進
6. 生物的環境要因-微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の主な感染症 予防接種
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患(心疾患 高血圧 脳血管)
11. 主な疾病の予防 代謝異常の疾患(糖尿病 脂質異常症)、痛風、
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー、不慮の事故
13. 環境保健 人間の環境、環境の評価、物理的環境、化学的環境
14. 環境保健 大気と水、廃棄物環境
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、提出物(10%)を合わせて評価する。

自己学習

講義の前にテキストの該当箇所を通読しておくこと。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は試験問題の範囲となります。整理して保管しておくこと。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」（南江堂）監修：鈴木庄亮 編集：小山洋・辻一郎

参考文献

「国民衛生の動向」（財団法人厚生統計協会）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A070011 |
| 講義名 | 衛生・公衆衛生学Ⅱ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-4002 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 宮本 邦彦 | 指定なし |

担当教員

宮本邦彦

講義の目的

衛生・公衆衛生学Ⅱでは、人間集団の健康保持と増進、生命の延長を図るため、生活環境の衛生や環境の管理を理解すると共に、日本で行われている保健福祉を分野別に地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、精神保健、高齢者保健、精神保健、国際保健に分けて学ぶ。また、医療福祉の制度と法規についても学ぶ。

到達目標

人々の健康に影響を及ぼす様々な要因について理解し、日本で実施されている保健・福祉の手法を理解し、よりよい手法として発展するために必要なことはなにかを考えることができるようになること。

授業計画表

授業計画

1. 環境保健：衣食住の衛生
2. 環境保健：公害・環境の管理
3. 地域保健と保健行政・保健制度の仕組み
4. 母子保健
5. 学校保健
6. 中間試験
7. 産業保健①：職業と産業・労働災害
8. 産業保健②：職業病・健康診断・健康増進
9. 高齢者の保健・医療福祉①：老人の生活と健康
10. 高齢者の保健・医療福祉②：老人保健・福祉対策・介護保険
11. 精神保健①：精神保健の概要
12. 精神保健②：精神保健福祉活動
13. 国際保健医療
14. 健医療福祉の制度と法規
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績（45%）、中間試験成績（45%）、平常点（10%）を合わせて評価する。

自己学習

講義の前にテキストを通読しておくこと

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は試験問題の範囲となります。整理し理解しておくこと。

テキスト

「シンプル衛生公衆衛生学 2016」（南江堂）監修：鈴木庄亮 編集：小山洋・辻一郎

参考文献

「国民衛生の動向」（財団法人厚生統計協会）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A074011 |
| 講義名 | 加齢医学（老年医学） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2108 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 紀平 為子 | 指定なし |

担当教員

紀平為子

講義の目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。とりわけ認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、骨粗鬆症、転倒などへの取り組みは介護予防のためにも極めて重要である。さらに健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

授業計画表

授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病

- 14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患
- 15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

成績の評価

試験・レポート(小テストを含む)・平常点の結果を総合して評価する

自己学習

加齢と高齢社会について多方面から情報収集し、情報の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。

履修上の注意

自己学習をすすめ、自分の考えや意見を積極的に発表できるように取り組むこと。

テキスト

特に指定しない。

参考文献

老年医学テキスト(MEDICAL VIEW) 社団法人日本老年医学会 編

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A085011 |
| 講義名 | 環境と健康 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活 |
| 科目ナンバリング | GE-1210 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松本 健治 | 指定なし |

担当教員

松本 健治

講義の目的

人間の健康だけでなくあらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右される。種々の環境を理解したうえで、様々な環境が人間の心身にどのような影響をあたえるのかを学習する。

到達目標

環境と健康の関連についての考え方や環境・健康学の基礎を学習したうえで、具体的内容として健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病・障害予防対策が理解できるようになり、将来、医療専門職としての基礎的な知識が身に付く。

授業計画表

授業計画

1. 環境と健康
環境と人間との相互関係、生態系の営み
2. 物理的環境（その1）
温熱条件、騒音、振動
3. 物理的環境（その2）
電磁波、異常気圧
4. 化学的環境（その1）「空気と健康」を中心に
5. 化学的環境（その2）
有害化学物質の吸収、体内蓄積、排泄、症状、
障害の予防、変異原と催奇形原
6. 生物的環境
病原微生物、病原体を保有または媒介する動物
7. 生物的環境：寄生虫、有毒動植物を中心に
8. 食物環境：食の安全性をめぐって
9. 衣服と住居環境
快適条件、シックハウス症候群

- 10. 水をめぐる問題：水と健康
- 11. 公害の人間生活への影響
身体的・精神的・心理的影響、防止対策、
環境保全の原則
- 12. 地球環境問題（その1）
地球環境と生活、残留性有機汚染物質、
内分泌攪乱化学物質、有害廃棄物の越境移動
- 13. 地球環境問題（その2）
オゾン層の破壊、地球温暖化
- 14. 地球環境問題（その3）
酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、
海洋汚染
- 15. 地球環境問題（その4）とまとめ
地球環境問題への取り組み

成績の評価

国試形式による試験40問（80%）とミニレポートを含む受講態度（20%）で評価します。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と事前配布資料で予習することが肝要です。

履修上の注意

無断欠席は最悪。毎回ミニレポートを課します。

テキスト

1週間以上前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。

参考文献

適宜、紹介します。

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室

講師控室

授業用E-mail

kenmatsu@wakayama-med.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A114011 |
| 講義名 | 経穴学実習 A |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 2 時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-2304 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 谷 万喜子 | 指定なし |

担当教員

谷 万喜子・鍋田 理恵・池藤 仁美

講義の目的

経穴学実習は鍼灸臨床を直接支える重要な科目であり、効果的な鍼灸施術を行うためには経穴を理解することが大切です。実習講義の内容を十分理解し、取穴の実際について、指先と体で覚えるように心がけてください。

到達目標

経穴の部位を覚えて取穴ができるようになる。

授業計画表

授業計画

前期

1. 足少陰腎経、手厥陰心包経の経絡流注、所属経穴の部位
2. 手少陽三焦経、足少陽胆経の経絡流注、所属経穴の部位
3. 足厥陰肝経の経絡流注、所属経穴の部位
4. 体表標示法、骨度法および指量法
5. 前期中間試験①、上肢の経穴について①
6. 上肢の経穴について②
7. 上肢の経穴について③
8. 上肢の経穴について④
9. 前期中間試験②、下肢の経穴について①
10. 下肢の経穴について②
11. 下肢の経穴について③
12. 下肢の経穴について④
13. 前期中間試験③、背部と殿部の経穴について①
14. 背部と殿部の経穴について②
15. 胸腹部の経穴について

後期

16. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について①
17. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について②
18. 顔面部の経穴について
19. 頭部の経穴について①
20. 頭部の経穴について②
21. 経外奇穴①
22. 経外奇穴②
23. 後期中間試験
24. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈①
25. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈②
26. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈③
27. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴①
28. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴②
29. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴③
30. 後期のまとめ（実習）

成績の評価

各期末試験の成績に、中間試験、小テスト、実習状況等を総合して前期50%、後期50%で評価します。

自己学習

経穴学は、短期的な学習では身につけません。繰り返し勉強して覚える必要があります。予習・復習をしっかりと行ってください。

履修上の注意

成績不良者を対象に随時補習をします。

テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

参考文献

- 「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）本間祥白著
- 「臨床経穴図」（医道の日本社）木下晴都著
- 「定本経穴図鑑」（主婦の友社）芹澤勝助著
- 「カラーアトラス 取穴法」（医歯薬出版）形井秀一他著

研究室

診療・研究棟4階416研究室（谷・鍋田）

診療・研究棟3階教員室（池藤）

授業用E-mail

tani@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A114012 |
| 講義名 | 経穴学実習 B |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 2 時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-2304 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 池藤 仁美 | 指定なし |

担当教員

谷 万喜子・鍋田 理恵・池藤 仁美

講義の目的

経穴学実習は鍼灸臨床を直接支える重要な科目であり、効果的な鍼灸施術を行うためには経穴を理解することが大切です。実習講義の内容を十分理解し、取穴の実際について、指先と体で覚えるように心がけてください。

到達目標

経穴の部位を覚えて取穴ができるようになる。

授業計画表

授業計画

前期

1. 足少陰腎経、手厥陰心包経の経絡流注、所属経穴の部位
2. 手少陽三焦経、足少陽胆経の経絡流注、所属経穴の部位
3. 足厥陰肝経の経絡流注、所属経穴の部位
4. 体表標示法、骨度法および指量法
5. 前期中間試験①、上肢の経穴について①
6. 上肢の経穴について②
7. 上肢の経穴について③
8. 上肢の経穴について④
9. 前期中間試験②、下肢の経穴について①
10. 下肢の経穴について②
11. 下肢の経穴について③
12. 下肢の経穴について④
13. 前期中間試験③、背部と殿部の経穴について①
14. 背部と殿部の経穴について②
15. 胸腹部の経穴について

後期

16. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について①
17. 肩上部、頸部、側頭部の経穴について②
18. 顔面部の経穴について
19. 頭部の経穴について①
20. 頭部の経穴について②
21. 経外奇穴①
22. 経外奇穴②
23. 後期中間試験
24. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈①
25. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈②
26. 十五絡穴、四総穴、八総穴、八会穴、奇経八脈③
27. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴①
28. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴②
29. 動脈拍動部、神経刺激点、同音異穴③
30. 後期のまとめ（実習）

成績の評価

各期末試験の成績に、中間試験、小テスト、実習状況等を総合して前期50%、後期50%で評価します。

自己学習

経穴学は、短期的な学習では身につけません。繰り返し勉強して覚える必要があります。予習・復習をしっかりと行ってください。

履修上の注意

成績不良者を対象に随時補習をします。

テキスト

「新版 経絡経穴概論」（医道の日本社）

参考文献

- 「図解鍼灸実用経穴学」（医道の日本社）本間祥白著
- 「臨床経穴図」（医道の日本社）木下晴都著
- 「定本経穴図鑑」（主婦の友社）芹澤勝助著
- 「カラーアトラス 取穴法」（医歯薬出版）形井秀一他著

研究室

診療・研究棟4階416研究室（谷・鍋田）

診療・研究棟3階教員室（池藤）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A120011 |
| 講義名 | 健康運動実習Ⅰ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 総合領域 |
| 科目ナンバリング | A2-2712 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 竹尾 吉枝 | 指定なし |

担当教員

竹尾 吉枝

講義の目的

有酸素運動は生活習慣病やメタボリックシンドロームの改善に有効であることが知られている。有酸素運動として一般的に行われている一つにエアロビックダンスがある。本講座ではエアロビックダンスの健康に対する効果を理解させるとともに、基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくりを目標とする。また、ストレッチングの実際についても学習する。

到達目標

基本的プログラム作成上の指導指針と初級指導法の習得、および運動の楽しさを伝えられる指導者としての姿勢づくり。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス、エアロビックダンスの背景・特性、初級プログラムの実践
2. クラス形式と授業順序の重要性、初級プログラムの実践
3. キューイングテクニック、初級プログラムの実践
4. メインエクササイズの部分指導演習
5. 正しい姿勢と筋強化エクササイズの必要性、初中級プログラムの実践
6. エアロビックダンスの運動処方、初中級プログラムの実践
7. 指導の循環、初中級プログラムの実践
8. ウォームアップの部分指導演習
9. プログラム作成上の留意点、音楽について、中級プログラムの実践
10. 自重で行う筋力強化エクササイズの指導法、中級プログラム
11. ストレッチングの指導法、中級プログラム
12. 授業前の指導とプレゼンテーションテクニック、グループテスト練習
13. 健康運動実践指導者実技模擬試験
14. 健康運動実践指導者実技模擬試験
15. 健康運動実践指導者理論対策

成績の評価

実技試験で設定した課題への到達度と授業への取り組む姿勢などで評価する。

平常点：50%、実技点：45%、態度点：5%

- ・小課題実技を2回実施し、1回につき10%とする。
- ・学期末課題実技は1回実施し、25%とする。

自己学習

授業4～5回毎に修了確認とする課題を実施する。課題の前週には練習を行い、実演の留意点の資料を配布する。その資料を参考に各自、計画的に自主学習に取り組むことが望ましい。

履修上の注意

実技授業のため、授業の全部が見学の場合は不可とする。見学・遅刻、途中退出は平常点より減点する。

ウェアは骨格筋肉の動きがわかる大きすぎることなく動きやすい、かつ吸水率・通気性の高いものを着用すること。その他の持ち物は、室内シューズ（衝撃吸収性が高く、適度な柔軟性があるものが望ましい）と大きめのタオル、筆記用具。肩にかかる長髪は束ね、大きめのイヤリングやネックレスは非装着とする。

(財)健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生は、当該科目を履修する必要がある。当該科目は、その養成講座、「10. エアロビック運動の理論と実際（実技）」および「11. ストレッチングの理論と実際」の内容を含む。(公財)日本体育協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修する必要がある。当該科目はその養成講座の専門科目「1. フィットネス・エクササイズの理論と実際」の内容を含む。

テキスト

「健康運動実践指導者養成用テキスト」

(公財)健康・体力づくり事業財団

参考文献

「新エアロビックダンスエクササイズの実技指導」

(公財)日本フィットネス協会 高順姫他著

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A121011 |
| 講義名 | 健康運動実習Ⅱ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類・分野名 | 総合領域 |
| 科目ナンバリング | A2-2713 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 朝海 伯子 | 指定なし |

担当教員

朝海 伯子

講義の目的

1. 健康づくりを目的とした水中運動の理論を理解する
2. 安全かつ効果的な水中運動を習得する
3. 自ら見本を示せる実技能力と集団に対する運動指導を習得する

到達目標

健康運動実践指導者の指導実技試験内容（水中運動）を行えるようにする

授業計画表

授業計画

1. 注意事項 授業説明 水なれ 水中運動実技
2. 水中運動の理論 水中運動実技
3. 水中運動の理論 水中運動実技
4. 水中運動の理論 水中運動実技
5. レジスタンス運動 水中運動実技
6. レジスタンス運動 水中運動実技
7. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
8. 指導案作成 水中運動実技 指導実技
9. 水中運動実技 指導実技
10. 水中運動実技 指導実技
11. 水中運動実技 指導実技
12. 水中運動実技 指導実技
13. 試験日
14. 試験日

成績の評価

試験日に水中運動（3分間）の指導実技テストを行う。技術の修得及び、説明能力・表現・指導力・適応能力を総合評価する。

試験 %・平常点 %

自己学習

水中運動の目的・方法を理解し、説明する練習をする。

履修上の注意

水泳帽子着用・毎回出欠確認・準備運動後の遅刻は見学参加・無断退出は欠席・自動車通学禁止・見学参加はレポート提出・移動時注意する・準備、後片付けは班ごとで行う・水着は体にフィットしたものを着用・施設への移動時、各自で安全確認すること

なお、「健康運動実践指導者」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

「健康運動実践指導者養成テキスト」

(財)健康・体力づくり事業財団

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A169021 |
| 講義名 | 情報科学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 科学的思考の基盤 |
| 科目ナンバリング | GE-1106 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 中村 正信 | 指定なし |

担当教員

中村正信

講義の目的

現代の社会にはおびただしい数の情報が流れているが、その中で生活し、働くものとして能率良く必要かつ有用な情報を入手し、それらを整理し、分析する能力を身に付けることは大切なことである。さらに、医療従事者にとっては情報モラルや情報セキュリティも非常に重要である。今後、高度化する医療機器を扱う機会がますます増加することなどから、情報科学・情報技術の重要性を理解し、安全に活用する必要がある。

到達目標

コンピュータの操作からはじめて、文章・画像情報処理・データ処理等の技術を習得する。これからの学生生活において学ぶための1つの重要なスキルを身につけることを目指す。

授業計画表

授業計画

1. 情報社会のセキュリティ、コンピュータの基本操作
2. ワードプロソフトの利用-文章作成と管理 1
3. ワードプロソフトの利用-文章作成と管理 2
4. ワードプロソフトの利用-一般文章の作成
5. ワードプロソフトの利用-レポートの作成
6. ワードプロソフトの利用-既存データの利用
7. 表計算ソフトの利用-表作成 1
8. 表計算ソフトの利用-表作成 2
9. 表計算ソフトの利用-編集操作
10. 表計算ソフトの利用-数式・関数の活用
11. 表計算ソフトの利用-グラフの作成
12. プレゼンテーションソフトの利用 1
13. プレゼンテーションソフトの利用 2
14. 総合演習
15. まとめ

成績の評価

試験約50%・授業中提出物約40%・平常点約10%

自己学習

コンピュータの習熟度は個人のこれまでの学習経験などによって大きな開きがある。講義では各課題に対して授業中に完成させることを重視しているので、特にパソコン初心者は復習よりは予習を強く勧める（予めテキストに目を通し学習内容のイメージを持つことは大変有効である）。

履修上の注意

この講義はコンピュータを常に操作する実習形式をとるので、欠席しないこと。また課題を授業中の指定の時間内に完成できなかった場合は、できたところまでを提出すること。多くの課題は互いに関連性が大きいので、完成できなかった課題や、出席できなかった日の課題については、各自速やかに自習しておくこと。なお、講義に用いるサンプルはテキストに基づいているので、講義中も参照できるようにテキストを準備しておくこと。

テキスト

「実践ドリルで学ぶOffice活用術 2016対応」（noa出版）

参考文献

「情報利活用コンピュータリテラシー」（日経BP社）

noa出版、日経BP社等のテキスト

授業用E-mail

nakamura@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A171011 |
| 講義名 | 食品栄養学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 |
| 代表時限 | 5時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2109 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 黒木 知美 | 指定なし |

担当教員

黒木 知美

講義の目的

私たちは食事をとることによって、生命を維持し、発育・成長し、健康を保持増進している。必要な物質を体内に取り込み、利用することを栄養といい、その仕組みについて学ぶことが栄養学である。また、栄養ケアマネジメントを行えるよう、対象者について幅広く理解を深めていくことを目的とする。

授業計画表

授業計画

1. 栄養と栄養素
2. 5大栄養素（炭水化物、タンパク質、脂質、ビタミン、無機質）
3. 日本人の食事摂取基準
4. 消化、吸収および排泄
5. エネルギー代謝
6. 食品の成分と体の成分
7. 病態と栄養（糖尿病）
8. 病態と栄養（脂質異常症、高血圧）
9. 病態と栄養（腎臓病）
10. 病態と栄養（貧血、脱水）
11. 病態と栄養（食物アレルギー）
12. ライフステージと栄養
13. 運動と栄養ケア（筋グリコーゲンの再補充）
14. 特定保健食品、栄養補助食品やその表示
15. まとめ

成績の評価

試験（60%） レポート、ノート提出（30%） 小テスト（10%）

履修上の注意

授業ノートを作り、配布プリントとともに平素からまとめておくこと。
「健康運動実践指導者」「トレーニング指導者（JATI）」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。

テキスト

授業時に必要に応じてプリントを配布する。

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A230011 |
| 講義名 | 生命倫理 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活 |
| 科目ナンバリング | GE-1201 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 宗平 | 指定なし |
| 非常勤 | 矢本 希夫 | 指定なし |

担当教員

吉田宗平、矢本希夫

講義の目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系学生にとって学ぶべき必須の科目である

到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で議論しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

授業計画表

授業計画

<吉田担当>

- 1.生命倫理の歴史と今日的課題（その1）
- 2.生命倫理の歴史と今日的課題（その2）
- 3.患者にとっての医療—インフォームドコンセントとは？
- 4.終末期と死をめぐる倫理（その1）
- 5.終末期と死をめぐる倫理（その2）
- 6.終末期と死をめぐる倫理（その3）
- 7.先端医療技術と倫理（その1）
- 8.先端医療技術と倫理（その2）
- 9.先端医療技術と倫理（その3）
- 10.医学研究と倫理

<矢本担当>

- 11.出生をめぐる生命倫理（その1）
- 12.出生をめぐる生命倫理（その2）

13. 出生をめぐる生命倫理 (その3)
14. 出生をめぐる生命倫理 (その4)
15. 出生をめぐる生命倫理 (その5)

成績の評価

定期試験あるいはレポートにより評価する。

1. 授業計画1～10 (吉田担当) についてはレポート評価にて60点配分。
2. 授業計画11～15 (矢本担当) については試験評価にて40点配分。
3. 以上を合計して100点満点に換算して成績を評価する。

自己学習

配布した講義資料や以下に掲げた参考図書を利用すること。

履修上の注意

将来の医療人を目指す上での倫理感と責任感を修得する。自分でよく考えること。

テキスト

講義時に配布する資料にて行う。

参考文献

- 「生命倫理と医療倫理」(金芳堂)伏木信次他編
- 「生命倫理への招待」(金芳堂)塩野寛、清水恵子著
- 「学生と考える倫理」(ナカニシヤ出版)金子章道、金内雅夫、川田田美著
- 「看護学生のための倫理学」(金芳堂)攻訂2版高谷修著

オフィスアワー

月曜日昼休み時間 (12:30～13:30)

研究室

管理棟2階学長室 (吉田)

授業用E-mail

yoshida@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A260011 |
| 講義名 | 中国語 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1306.1 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 橋本 知佳 | 指定なし |

担当教員

橋本 知佳

講義の目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話で練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強しておきます。

到達目標

授業毎に個別に発音、会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課 発音 (1) 単母音と声調 音節の特殊ルール①
3. 授業の復習、会話練習、
4. 第2課 発音 (2) 複母音一二重母音、三重母音、声調付け位置 音節の特殊ルール②
5. 授業の復習、会話練習
6. 第3課 発音 (3) 複母音一鼻母音
7. 母音のまとめ、リスニングの練習・確認
8. 第4課 発音 (4) 子音① 有気音と無気音 音節の特殊ルール③
9. 授業の復習、会話練習

10. 第5課 (5) 発音 (5) 子音② 音節の特殊ルール④
11. 授業の復習、会話練習
12. ピンインの実用練習 & 発音確認
13. 第6課 動詞の「是shi」の基本的な使い方
14. 本文の発音練習、練習問題を解く、個別発音チェック
15. まとめ復習、確認練習

成績の評価

学習態度、出席状況、宿題の提出、授業中に積極した発言・発表は平常点とし、期末試験及び課題作り・発表の成績などにより総合的に評価する。

自己学習

事前にテキストの内容を確認し、本文を写す。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は授業毎に名前を中国語の発音で出席を取り、座席は学籍番号順で決める。授業中に許可なしに退出した場合は、如何な理由にしても早退とする。20分以上の遅刻、遅刻3回・教科書忘れ1回で欠席とする。私語厳禁、携帯電話の使用、ほかの教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに個別発音、会話の確認の採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

関西医療学園専用「中国語入門テキスト」CDなし

参考文献

必要時は授業中に指示する。

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A264011 |
| 講義名 | 東洋医学と西洋医学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 人間と生活 |
| 科目ナンバリング | GE-1211 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 戸田 静男 | 指定なし |

担当教員

戸田静男

講義の目的

明治新政府の漢方廃絶により東洋医学(漢方医学)は非公認となった。それ以降、日本の医学、医療の主流は西洋医学となった。しかし、近年東洋医学が見直され、現在では医学、医療の一部となった。その傾向は、ますます拡大されてきている。そして、その波は世界各国に広がっている。このようなことから、東洋医学の基礎概念を解説して行きながら、西洋医学の分野で東洋医学がどのように反映されているのかを講義してゆく。

到達目標

東洋医学と西洋医学の全体像を俯瞰しながら、医学や医療について論じ議論し合えることを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 現代医学における東洋医学の位置づけ
2. 東洋医学と西洋医学の違い
3. 東洋医学の基本構造
4. 漢方方剤の基本概念
5. 東洋医学における証
6. 東洋医学における病態把握 陰陽虚実表裏寒熱
7. 東洋医学的診断 望、聞、問、切
8. 東洋医学的病因 気、血、水
9. 東洋医学的治療
10. 鍼灸の基本概念
11. 鍼灸の病態把握
12. 鍼灸治療
13. 東洋医学と相補・代替医学
14. 東洋医学と世界の伝統医学
15. 今後の医学、医療における東洋医学と西洋医学

成績の評価

課題レポート70%、平常点30%

自己学習

授業後復習をしっかりとしてもらえば結構である。

履修上の注意

毎回テーマを決めて講義をする。しっかりと授業内容を把握してもらえば結構である。

テキスト

なし。教材としてプリントを配布する。

参考文献

特になし。講義中に参考図書を紹介する。本学図書館の書籍を大いに参考、活用してほしい。

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A267011 |
| 講義名 | 東洋医学各論Ⅰ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-4104 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|-------|------|
| 教員 | ◎ 王財源 | 指定なし |

担当教員

王財源

講義の目的

中国伝統医学を軸足とする東洋医学には「方証一致」の法則がある。つまり、四診を通じて病状を的確に把握し、「病証」（弁証）を明らかにすることにある。本講義では、一年次に習得した中国伝統医学の基礎知識を用いて、臨床現場で必要となる弁証や診断とその実践方法の基礎について学ぶ。

到達目標

中国伝統医学(中医学)の気血や蔵府(臓腑)、経絡理論を通して、四診による具体的な知識を養うことで、八綱弁証や臓腑弁証の応用能力を育て実践に役立てる。

授業計画表

授業計画

1. 中国古代の人間観
2. 気の思想と人体との関係
3. 陰陽五行論と人体の関係
4. 気、血、津液、精の働き
5. 気血と経絡の関係
6. 経絡の働きと経穴
7. 中医蔵府学
【肝の生理と病理】
8. 中医蔵府学
【心の生理と病理】
9. 中医蔵府学
【脾の生理と病理】
10. 中医蔵府学
【肺の生理と病理】
11. 中医蔵府学
【腎の生理と病理】

12. 臓腑間相関理論
(臓腑間病証と五行循環)
13. 臓腑経絡相関理論
(経絡循環と五行循環)
14. 中医診断学
【四診における基礎知識】
15. 中医診断学
【弁証学と診断学】
16. 中医診断学【望診法】
17. 中医診断学【聞診法】
18. 中医診断学【問診法】
19. 中医診断学【切診法】
20. 中医診断学
【舌診と病証の関係】
21. 中医診断学
【脈診と病証の関係】
22. 中医診断学
【腹診と病証の関係】
23. 『難経』六十九の臨床運用
24. 『難経』六十九の臨床運用による配穴
25. 八綱弁証
【寒熱、虚実より八綱を考察する】
26. 八綱弁証
【気血、寒熱、陰陽より八綱を考察する】
27. 臓腑弁証
28. 経絡弁証
29. ピラミッド弁証法
30. ケーススタディ (具体的な症例を検討する)

成績の評価

試験90%・レポート10%
前期50% + 後期50% = 最終評価とする。

自己学習

- ①「臓腑学」などで基本理論を習得し、中国伝統医学に対する予備知識を高めて置くと聴講の助けとなります。
- ②書籍に親しみ東洋医学用語を理解して専門性を高めること。
- ③さまざまな所見や症例に対して興味をもち、伝統医学的思考法を確立すること。

履修上の注意

- ①私語は慎み、質問は講義終了後に行う。携帯電話と飲食禁止。
- ②講義の進行状況に合わせて授業内容が前後することがある。
- ③レポート評価は出題テーマと一致したもので、新しい発見があり、さらにそれらを公的な出版物を介して検証できたものが望ましい。ネットや書籍よりのコピーが必要な場合は引用先を明確にし、出題テーマとの整合性を鑑みておくこと。

テキスト

『新版東洋医学概論』(医道の日本社) 東洋療法学校協会

参考文献

- 『入門・目でみる臨床中医診断学』(医歯薬出版)王財源
『わかりやすい臨床中医臓腑学』第三版(医歯薬出版)王財源
『漢方用語大辞典』(燎原書店)創医学会
『経筋・経別・奇経診療』臨床運用と理解(厚生社)岡田勝

オフィスアワー

木曜日午後。
面談時には事前にメールで連絡してください。

| |
|--|
| 研究室 |
| 診療・研究棟4F 413号室 |
| 授業用E-mail |
| cai@kansai.ac.jp |

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A297011 |
| 講義名 | 病因・病態学Ⅰ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2101 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 畑村 育次 | 指定なし |

担当教員

畑村 育次

講義の目的

疾病の正しい理解、診断と治療のために、人体の疾病の成因 (Etiology) 、さらにどのような過程で人体に病気を発症させるかという発生機序 (Pathogenesis) を理解し、これらに基づき人体機能の異常と形態の異常の関連について正しい知識を身につけることを目的とする。

到達目標

本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、特に病理学概論について講義を行う。

授業計画表

授業計画

1. 疾患の内因 1
2. 疾患の内因 2
3. 疾患の外因 1
4. 疾患の外因 2
5. 細胞の損傷、虚血、低酸素、萎縮と変性 (1)
6. 細胞の変性 (2)
7. 老化と加齢
8. 黄疸、肥大、過形成、再生
9. 創傷治癒、化生、壊死、アポトーシス
10. うっ血、充血、浮腫
11. 脱水、ショック、出血
12. 血栓、塞栓、DIC1
13. 血栓、塞栓、DIC2
14. 炎症基礎 1
15. 模擬試験

| |
|--|
| 成績の評価 |
| 定期試験100% |
| 自己学習 |
| 病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる |
| 履修上の注意 |
| 遅刻は厳禁。毎回確認テストを行います。 |
| テキスト |
| 授業レジュメを配ります。 『病理学概論』医歯薬出版) |
| 参考文献 |
| 『ロビンス基礎病理学』（廣川書店） 『標準病理学』（医学書院） 『わかりやすい病理学』（廣川書店） 『イラスト病理学』（文光堂） 『ゼットイわかる病理写真の読み方』医学教育出版社） 『病理組織の見方と鑑別診断』（医歯薬出版） 『シンプル病理学』 南江堂 |
| オフィスアワー |
| 木曜日 昼休み |
| 研究室 |
| 診療・研究棟4階402研究室 |

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A298011 |
| 講義名 | 病因・病態学Ⅱ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2102 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 畑村 育次 | 指定なし |

担当教員

畑村 育次

講義の目的

人体において、疾病がどのような原因により発生し、また、どのような過程を経て病的変化が形成されていくかを知ることが、疾病の本質を理解する上で重要なことである。このような疾病の原因や病態の科学は、病理学と呼ばれる領域において研究発展させられてきたものであり、西洋医学的な視点から疾病を理解するための基礎として、疾患の病因・病態を理解する

到達目標

この講義では病因・病態Ⅰの続きおよび各疾患の病因・病態について基本的な講義を行い、前期で学んだことをさらに発展させ疾患の基礎的理解を深める。各種疾病の病因や病態について、理解ができるようにするとともに、自ら考え得る能力を養うことをも目標とする。本講義では各種疾病の病因や病態について基礎的な理解ができること、さらに自ら考える能力を養うことを目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 炎症各論 1
2. 免疫の基礎 1
3. 免疫の基礎 2
4. 免疫 1
5. 免疫 2
6. インフルエンザ
7. 免疫異常・アレルギー
8. 自己免疫疾患 1
9. 自己免疫疾患 2・臓器移植
10. 腫瘍 1
11. 腫瘍 2
12. 腫瘍 3
13. 先天性疾患と遺伝性疾患 1

14. 先天性疾患と遺伝性疾患 2

15. 模擬試験

成績の評価

定期試験100%

自己学習

病理学は、解剖学や生理学、生化学などの知識の上に成り立っている。従って、これらについて、よく復習をしておくことが必要となる

履修上の注意

遅刻は厳禁。毎回確認テストを行います。

テキスト

毎回授業レジュメを配ります。
『病理学概論』（医歯薬出版）

参考文献

『ロビンス基礎病理学』（廣川書店）
『標準病理学』（医学書院）
『わかりやすい病理学』（廣川書店）
『イラスト病理学』（文光堂）
『ゼットイわかる病理写真の読み方』医学教育出版社）
『病理組織の見方と鑑別診断』（医歯薬出版）
『シンプル病理学』 南江堂

オフィスアワー

木曜日 昼休み

研究室

必修・後期 1 単位(講義)

授業用E-mail

i-hatamura@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A379011 |
| 講義名 | 鍼灸基礎実習ⅡA（応用実技） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 4 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-4101 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 鍋田 理恵 | 指定なし |
| 教員 | 中吉 隆之 | 指定なし |

担当教員

中吉隆之（後期）、川本正純、坂口俊二

講義の目的

1年次の基礎実習の内容を踏まえ、鍼灸施術を‘どこに’‘どのように’行うかに重点を置く。

到達目標

‘どこに’とは、‘経穴’である。授業計画に示す身体各部の経穴には、鍼灸臨床において使用頻度の高い経穴を選択し、その取穴の習得を、また‘どのように’では、安全で基本に忠実な技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

前期（担当：鍋田）

1. 鍼灸基本技術/刺鍼手技
2. 肘関節部の経穴への鍼灸①
3. 肘関節部の経穴への鍼灸②
4. 手関節部・手部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘刺鍼手技’
5. 手関節部・手部の経穴への鍼灸②
6. 前腕部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼のひびき’
7. 前腕部の経穴への鍼灸②
8. 膝関節部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼灸の有害事象と感染防止’
9. 膝関節部の経穴への鍼灸②
10. 足関節部・足部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘個々の有害事象の防止法’
11. 足関節部・足部の経穴への鍼灸②
12. 下腿部の経穴への鍼灸①
13. 下腿部の経穴への鍼灸②
14. 身体各部への刺鍼・施灸の復習・実技試験1（片手鍼管操作・紙上施灸）
15. 実技試験2（片手鍼管操作・紙上施灸）
16. 身体各部への刺鍼・施灸の前期復習

- 17.実技試験3
 - 18.実技試験4
 - 19.実技試験5
- 後期（担当：中吉）
- 20.背腰部の経穴への鍼灸①
 - 21.背腰部の経穴への鍼灸②
 - 22.腹部の経穴への鍼灸
 - 23.前胸部の経穴への鍼灸
 - 24.肩甲部の経穴への鍼灸①
 - 25.肩甲部の経穴への鍼灸②
 - 26.頸部の経穴への鍼灸
 - 27.頭顔面部の経穴への鍼灸①・[講義：坂口]鍼灸治療における治療者-患者関係' [キャリア支援]
 - 28.頭顔面部の経穴への鍼灸②
 - 29.身体各部への刺鍼・施灸の総復習
 - 30.実技試験

成績の評価

出欠状況ならびに基礎技術の到達度（10%）、実技試験（60%）および期末（学科）試験（30%）により総合的に評価する。

自己学習

本科目と並行して経穴学の習得が必須である。基礎技術では毎回の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意

実習につき、授業回数の5分の1を超えて欠席した場合は受験資格を失う。
後期の実技試験は統一実技試験とし、後期補講期間中に実施予定である。

テキスト

『鍼灸医療安全性ガイドライン』鍼灸安全性委員編（医歯薬出版）

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日～金曜日の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 416研究室

授業用E-mail

2c@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A379012 |
| 講義名 | 鍼灸基礎実習ⅡB（応用実技） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 4 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-4101 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 中吉 隆之 | 指定なし |
| 教員 | 鍋田 理恵 | 指定なし |

担当教員

鍋田理恵（後期）、川本正純、坂口俊二

講義の目的

1年次の基礎実習の内容を踏まえ、鍼灸施術を‘どこに’‘どのように’行うかに重点を置く。

到達目標

‘どこに’とは、‘経穴’である。授業計画に示す身体各部の経穴には、鍼灸臨床において使用頻度の高い経穴を選択し、その取穴の習得を、また‘どのように’では、安全で基本に忠実な技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

前期（担当：中吉）

1. 鍼灸基本技術/刺鍼手技
2. 肘関節部の経穴への鍼灸①
3. 肘関節部の経穴への鍼灸②
4. 手関節部・手部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘刺鍼手技’
5. 手関節部・手部の経穴への鍼灸②
6. 前腕部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼のひびき’
7. 前腕部の経穴への鍼灸②
8. 膝関節部の経穴への鍼灸①・[講義：鍋田]‘鍼灸の有害事象と感染防止’
9. 膝関節部の経穴への鍼灸②
10. 足関節部・足部の経穴への鍼灸①・[講義：中吉]‘個々の有害事象の防止法’
11. 足関節部・足部の経穴への鍼灸②
12. 下腿部の経穴への鍼灸①
13. 下腿部の経穴への鍼灸②
14. 身体各部への刺鍼・施灸の復習・実技試験1（片手鍼管操作・紙上施灸）
15. 実技試験2（片手鍼管操作・紙上施灸）
16. 身体各部への刺鍼・施灸の前期復習

- 17.実技試験3
 - 18.実技試験4
 - 19.実技試験5
- 後期（担当：鍋田）
- 20.背腰部の経穴への鍼灸①
 - 21.背腰部の経穴への鍼灸②
 - 22.腹部の経穴への鍼灸
 - 23.前胸部の経穴への鍼灸
 - 24.肩甲部の経穴への鍼灸①
 - 25.肩甲部の経穴への鍼灸②
 - 26.頸部の経穴への鍼灸
 - 27.頭顔面部の経穴への鍼灸①・[講義：坂口]鍼灸治療における治療者-患者関係' [キャリア支援]
 - 28.頭顔面部の経穴への鍼灸②
 - 29.身体各部への刺鍼・施灸の総復習
 - 30.実技試験

成績の評価

出欠状況ならびに基礎技術の到達度（10%）、実技試験（60%）および期末（学科）試験（30%）により総合的に評価する。

自己学習

本科目と並行して経穴学の習得が必須である。基礎技術では毎回の課題にしっかり取り組むこと。

履修上の注意

実習につき、授業回数の5分の1を超えて欠席した場合は受験資格を失う。
後期の実技試験は統一実技試験とし、後期補講期間中に実施予定である。

テキスト

『鍼灸医療安全性ガイドライン』鍼灸安全性委員編（医歯薬出版）

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日：16:20～17:00
水曜日、木曜日の昼休み時間
記載の曜日・時間帯以外でも可能であれば対応します。
事前にメールなどで連絡をいただければ確実です。

研究室

診療・研究棟4階 414研究室

授業用E-mail

nakayosi@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A396011 |
| 講義名 | 鍼灸理学併用療法実習A |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-2601 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 教員 | ◎ 黒岩 共一 | 指定なし |
| 非常勤 | 松浦 英世 | 指定なし |

担当教員

松浦英世

講義の目的

あん摩、マッサージ、指圧（手技療法）は、一つの体系的治療法として古くから鍼灸に併用されて、発展してきた。本実習では、手技療法の基本の他、運動器疼痛に特化したトリガーポイントマッサージ（黒岩）、スポーツ領域に特化したスポーツ・マッサージ及び鍼灸との併用法（松浦）等の技術を学び、身に付ける。

到達目標

開業後、スポーツ分野に就職後、一通りマッサージできる。

授業計画表

授業計画

<黒岩担当分>

1. トリガーポイントマッサージの基礎
2. 機械痛の視座から腰痛、坐骨神経痛の再検討
3. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造特定のためのマーキングポイント
4. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習1
5. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習2
6. 腰痛のTPマッサージ：腰方形筋
7. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋1
8. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋2
9. 腰痛のTPマッサージ：多裂筋、大殿筋
10. 腰痛のTPマッサージ：中殿筋、小殿筋
11. 腰痛のTPマッサージ：大腰筋
12. 坐骨神経痛(殿部: 小・中殿筋、梨状筋)に対するTPマッサージ
13. 坐骨神経痛(股関節前方: 小・中殿筋)に対するTPマッサージ
14. 実技試験 前半
15. 実技試験 後半

<松浦担当分>

1. あん摩、マッサージ、指圧その他手技療法の基本
2. 肩背、腰仙殿部の全身編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
3. 下肢の全身編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
4. 伸展法下肢編
5. 上肢の全身編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
6. 伸展法上肢・頸部編
7. 胸腹部（五臓六腑）のマッサージ
8. 手部、手関節前腕の関節編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
9. 肘部、肩関節の関節編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
10. 牽引性運動法（上肢編）
11. 足部、足関節の関節編ｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
12. 下腿部のｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
13. 膝関節、大腿部のｽﾌﾟｰ -ツマッサージ
14. 牽引性運動法（下肢編）
15. 太極療法

成績の評価

実技試験80%、平常点20%にて評価。実技試験では、マッサージ肢位の設定、立体構造を把握した揉み方/圧迫の仕方、マッサージエリアなどについて評価(黒岩)。

ｽﾌﾟｰ -ﾄ90%にて評価。実習という性格上、欠席しないこと(松浦)。

自己学習

実習で取り上げる筋、靭帯とそれらが付着する骨の解剖学、運動学を実習日までに復習しておく。

履修上の注意

実習時間は限られており、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がける。指示以外の施術は目的とする技術習得の妨げとなり危険でもあるので、してはならない。また互いを被術者として練習するので、実習部位への手技が可能な服装を心掛け、被術側の時は寝入ったりせずに誘発された身体情報を施術者に伝える。

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験するには本科目の履修が必要。

テキスト

1. 「スポーツマッサージ」（関西運動器障害研究会） 松浦英世
2. 配布資料

参考文献

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」（大峰閣）河上敬介、磯貝香

オフィスアワー

水曜12:30-13:00

研究室

診療・研究棟3F 306研究室

授業用E-mail

kuroiwa@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A396012 |
| 講義名 | 鍼灸理学併用療法実習B |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-2601 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 教員 | ◎ 黒岩 共一 | 指定なし |
| 非常勤 | 松浦 英世 | 指定なし |

担当教員

松浦英世

講義の目的

あん摩、マッサージ、指圧（手技療法）は、一つの体系的治療法として古くから鍼灸に併用されて、発展してきた。本実習では、手技療法の基本の他、運動器疼痛に特化したトリガーポイントマッサージ（黒岩）、スポーツ領域に特化したスポーツ・マッサージ及び鍼灸との併用法（松浦）等の技術を学び、身に付ける。

到達目標

開業後、スポーツ分野に就職後、一通りマッサージできる。

授業計画表

授業計画

<黒岩担当分>

1. トリガーポイントマッサージの基礎
2. 機械痛の視座から腰痛、坐骨神経痛の再検討
3. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造特定のためのマーキングポイント
4. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習1
5. 腰痛、坐骨神経痛罹患構造の体表投影図描画実習2
6. 腰痛のTPマッサージ：腰方形筋
7. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋1
8. 腰痛のTPマッサージ：腸肋筋2
9. 腰痛のTPマッサージ：多裂筋、大殿筋
10. 腰痛のTPマッサージ：中殿筋、小殿筋
11. 腰痛のTPマッサージ：大腰筋
12. 坐骨神経痛(殿部: 小・中殿筋、梨状筋)に対するTPマッサージ
13. 坐骨神経痛(股関節前方: 小・中殿筋)に対するTPマッサージ
14. 実技試験 前半
15. 実技試験 後半

<松浦担当分>

1. あん摩、マッサージ、指圧その他手技療法の基本
2. 肩背、腰仙殿部の全身編ｽｯ -ツマッサージ
3. 下肢の全身編ｽｯ -ツマッサージ
4. 伸展法下肢編
5. 上肢の全身編ｽｯ -ツマッサージ
6. 伸展法上肢・頸部編
7. 胸腹部（五臓六腑）のマッサージ
8. 手部、手関節前腕の関節編ｽｯ -ツマッサージ
9. 肘部、肩関節の関節編ｽｯ -ツマッサージ
10. 牽引性運動法（上肢編）
11. 足部、足関節の関節編ｽｯ -ツマッサージ
12. 下腿部のｽｯ -ツマッサージ
13. 膝関節、大腿部のｽｯ -ツマッサージ
14. 牽引性運動法（下肢編）
15. 太極療法

成績の評価

実技試験80%、平常点20%にて評価。実技試験では、マッサージ肢位の設定、立体構造を把握した揉み方/圧迫の仕方、マッサージエリアなどについて評価(黒岩)。

ｽｯ -ト90%にて評価。実習という性格上、欠席しないこと(松浦)。

自己学習

実習で取り上げる筋、靭帯とそれらが付着する骨の解剖学、運動学を実習日までに復習しておく。

履修上の注意

実習時間は限られており、訓練する技術は、その時間内に習得するように心がける。指示以外の施術は目的とする技術習得の妨げとなり危険でもあるので、してはならない。また互いを被術者として練習するので、実習部位への手技が可能な服装を心掛け、被術側の時は寝入ったりせずに誘発された身体情報を施術者に伝える。

「日本体育協会公認アスレティックトレーナー（AT）」を受験するには本科目の履修が必要。

テキスト

1. 「スポーツマッサージ」（関西運動器障害研究会）松浦英世
2. 配布資料

参考文献

「改訂第2版 骨格筋の形と触察法」（大峰閣）河上敬介、磯貝香

オフィスアワー

水曜12:30-13:00

研究室

診療・研究棟3F 306研究室

授業用E-mail

kuroiwa@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A398011 |
| 講義名 | 鍼灸理論Ⅱ（応用） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 東洋医学系 |
| 科目ナンバリング | A2-4103 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 木村 研一 | 指定なし |

担当教員

木村 研一

講義の目的

1年次の鍼灸理論Ⅰで学んだ「鍼灸刺激が生体にどのように受容されるのか」をベースとして、鍼灸刺激が生体にどのような影響を与えるのか、鍼灸治療の効果がどのようなメカニズムで出現するのかについて、生理学や免疫学などにに基づき考えることが中心になります。

到達目標

鍼灸理論Ⅰの内容を踏まえ、鍼灸の治効理論を、科学的な側面から理解し、修得することを最低限の到達目標とする。

授業計画表

授業計画

1. 2. 鍼灸治効の基礎 (5) 鍼灸刺激と反射
2. 2. (6) 鍼鎮痛①
3. 2. (6) 鍼鎮痛②
4. 2. (6) 鍼鎮痛③
5. 2. (6) 鍼鎮痛④
6. 2. (7) 刺激と反応
7. 3. 鍼灸療法的一般治効理論
 - (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①
8. 3. (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②
9. 3. (1) 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響③
10. 3. 鍼灸療法的一般治効理論
 - (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響①
 11. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響②
 12. 3. (2) 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響③
 13. 3. (3) 鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用
14. 4. 関連学説①
15. 4. 関連学説②

成績の評価

評価は定期試験の成績によってのみ評価します。（試験100%）
出席は毎授業内に確認します。
確認時に不在の学生は、原則、欠席として取り扱います。

自己学習

この科目を理解するためには、東西両医学の基礎的な知識を必要とします。1年次で学んだ科目に加えて、2年次で学ぶ「臨床医学Ⅰ（医学総論）」や「病因・病態学Ⅰ・Ⅱ」などの知識を習得していることが前提です。

履修上の注意

「鍼灸理論Ⅰ」でも説明したように、「鍼灸理論Ⅰ」と「鍼灸理論Ⅱ」は、内容的には一連の教科であると捉えてください。そのため、定期試験では、鍼灸理論Ⅰの範囲を含んで出題します。

テキスト

「はりきゅう理論」（医道の日本社） 東洋療法学校協会編

参考文献

「図解鍼灸療法技術ガイドⅠ」（文光堂） 矢野忠編集他
「鍼灸臨床最新科学」（医葉薬出版） 矢野忠、川喜田健司編集

オフィスアワー

火曜日（12:00～13:00）

研究室

診療・研究棟4階414研究室

授業用E-mail

k.kimura@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A406011 |
| 講義名 | バイオメカニクス |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-3005 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 石川 昌紀 | 指定なし |

担当教員

石川昌紀, 小田啓之

講義の目的

各種スポーツにおける競技力は、スポーツ動作の巧拙や動作パワーの大小に大きく依存します。本講義の目的は、スポーツバイオメカニクスの観点から「動き」や「力」に関する研究に触れ、スポーツ動作の成り立ちについて理解することを目指します。身運動の基本動作および競技スポーツの特異的な動作についてバイオメカニクスの観点から理解することを目指します。

到達目標

本講義での目標は、身運動の基本動作である歩・走・跳・投・泳・滑動作の仕組みについて理解できる。

授業計画表

授業計画

1. バイオメカニクスイントロダクション
2. 身体構造・骨格筋の特性
3. 骨筋の特性・回転運動
4. 反動利用と身体運動
5. 歩く・走る 1
6. 歩く・走る 2
7. 跳ぶ 1
8. 跳ぶ 2
9. 中間試験
10. 投げる
11. 打つ
12. 蹴る
13. 泳ぐ
14. 滑る
15. スポーツの競技力に関わるバイオメカニクス知見

成績の評価

講義での課題(10回×5点)と試験 (50点) の100点満点で評価する。

自己学習

各授業計画のトピックについて、ネットを利用して情報を収集して予習しておくこと。

履修上の注意

講義内で指示

なお、「トレーニング指導者 (JATI)」「日本体育協会公認アスレティックトレーナー (AT)」を受験する学生は当該科目を履修しなければなりません。詳しくは、巻末を参照して下さい。

テキスト

講義内で配布する資料

参考文献

「スポーツバイオメカニクス入門」 (杏林書院) 金子公宥著
「スポーツバイオメカニクス」 (朝倉書店) 深代千之他編

オフィスアワー

月曜日1コマ目

研究室

講師控室

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A407011 |
| 講義名 | スポーツ医学Ⅰ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2115 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 増田 研一 | 指定なし |

担当教員

増田 研一・田中 雅博

講義の目的

スポーツ活動に起因する各種外傷・障害の基礎的知識を習得すること。

到達目標

上記に同じ。

授業計画表

授業計画

1. スポーツ外傷・障害総論
2. 体幹のスポーツ外傷・障害①頸部
3. 体幹のスポーツ外傷・障害②腰部・背部・骨盤
4. 上肢のスポーツ外傷・障害①肩関節
5. 上肢のスポーツ外傷・障害②肘関節
6. 上肢のスポーツ外傷・障害③手関節・手
7. 下肢のスポーツ外傷・障害①大腿
8. 下肢のスポーツ外傷・障害②膝関節
9. 下肢のスポーツ外傷・障害③下腿
10. 下肢のスポーツ外傷・障害④足・足関節
11. 重篤な外傷
12. その他の外傷
13. 年齢・性別による特徴
14. メディカルチェック
15. 予備

成績の評価

後期試験期間中に施行するマークシート方式の試験。

自己学習

現場実習の際の基礎知識となるので、特に復習を確実に行う事。

| |
|--|
| 履修上の注意 |
| 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目およびJATIトレーニング指導者一般科目に認定されているので、遅刻・欠席は認められない。 |
| テキスト |
| 日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト③。・・・毎回使用する。 |
| 参考文献 |
| 特になし |

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A408011 |
| 講義名 | スポーツ心理学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 |
| 代表時限 | 2時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2114 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 堀川 雅美 | 指定なし |

担当教員

堀川 雅美

講義の目的

スポーツと心の関係を科学的・合理的アプローチから理解する。

到達目標

スポーツにおける心に関わる問題がパフォーマンスに及ぼす影響を理解するとともに、スポーツへの動機づけやコーチングの原理・原則を知り、アスレティックトレーナーとして役立てられるように養成していく。

授業計画表

授業計画

1. オリエンテーション・スポーツ心理学の内容
2. スポーツスキルの制御と学習 1
3. スポーツスキルの制御と学習 2
4. スポーツスキルの効果的な学習法 1
5. スポーツスキルの効果的な学習法 2
6. スポーツの動機づけ
7. スポーツと発達
8. スポーツ集団の構造と機能
9. スポーツマンの性格と態度
10. スポーツと心の健康 1
11. スポーツと心の健康 2
12. スポーツにおける「あがり」
13. スポーツカウンセリング
14. コーチングの心理
15. 前期のまとめ

成績の評価

定期試験70%・課題20%・平常点10%で評価する。

自己学習

テキストの該当トピックスの予習・復習

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目に認定されています。遅刻・欠席は原則的に公認アスレティックトレーナー受験資格が認められませんので、十分注意してください。

テキスト

新スポーツ心理学・やさしいスチューデントトレーナーシリーズ メディカル・フィットネス協会監修 嵯峨野書院

参考文献

健康・スポーツの心理学・フィットネスシリーズ2／落合優編著 建帛社
スポーツメンタルトレーニング教本／日本スポーツ心理学会編 大修館書店
スポーツ心理学ハンドブック／上田雅夫監修 実務教育出版
これから学ぶスポーツ心理学／荒木雅信 大修館書店

授業用E-mail

horikawa@kwansei.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A409011 |
| 講義名 | スポーツリハビリテーションⅠ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 5時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-3006 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 中尾 哲也 | 指定なし |

担当教員

中尾 哲也

講義の目的

さまざまなスポーツ傷害に対する病態とリスクを把握し、身体機能障害に対する検査・測定を行えるようになる。

到達目標

教科書に書かれてある項目、内容について理解する。

授業計画表

授業計画

1. アスレティックリハビリテーションに必要な評価
2. アスレティックリハビリテーションに必要な評価
3. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
4. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
5. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定
6. アスレティックリハビリテーションに必要な検査測定法
7. スポーツ動作の観察と分析
8. スポーツ動作の観察と分析
9. スポーツ動作の観察と分析
10. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
11. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
12. 問診からアスレティックリハビリテーションの立案、実習
13. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入
14. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入
15. リスク管理にもとづいたリハ・プログラミングの導入

成績の評価

班毎の発表内容、提出レポートの内容、テストで評価する。

自己学習

次回の授業部分の予習

履修上の注意

仲間同士助け合い、お互いの力を伸ばす意識を持つこと。

テキスト

「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑤」検査・測定と評価 日本体育協会

参考文献

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック アスレティックリハビリテーション」

「公認アスレティックトレーナー 専門科目テキストワークブック 検査・測定と評価」

「新・徒手筋力検査法」 (協同医書出版社)

オフィスアワー

月～木の昼休み時間

研究室

診療・研究棟4階 (412)

授業用E-mail

nakao@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A411011 |
| 講義名 | 予防とコンディショニングⅠ |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2112 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 内田 靖之 | 指定なし |

担当教員

寺岡祐助

講義の目的

コンディショニングは競技スポーツにおいて欠かすことの出来ない概念である。しかしながら、競技成績のみを追いかけることは傷害のリスクを高めていることと同義である。本講義・実習では競技力の健全な発揮を求めるコンディショニングと傷害リスクの除外である予防をどのように組み合わせる選手へ処方していくか、基礎を高めることを目的とする。

到達目標

競技力向上のトレーニングと予防目的のトレーニングをどのように考えるか、思考力の獲得を目指す。また予防の手段の一つであるテーピング技術の習得を目指す。

授業計画表

授業計画

1. コンディショニングのとらえ方
2. トレーニングによる身体適応
3. コンディショニングの要素
4. テーピング実技：足部
5. テーピング実技：足関節①
6. テーピング実技：足関節②
7. テーピング実技：下腿部
8. テーピング実技：膝関節
9. テーピング実技：大腿部、股関節
10. テーピング実技：腰部、胸部、肩関節
11. テーピング実技：肘関節
12. テーピング実技：手関節、指
13. テーピング実技：キネシオテーピング①
14. テーピング実技：キネシオテーピング②
15. テーピング実技：総括

成績の評価

期末試験、テーピング試験、講義・実習に取り組む姿勢から総合的に評価する。

自己学習

テキストにテーピングの巻き方は載っていますが、人の形状は千差万別です。解剖学的な構造を理解してこそテーピングの技術が生きてきますので、体表解剖学の理解をおすすめします。

履修上の注意

本科目は（財）日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目、及びJATIトレーニング指導者一般科目に認定されています。双方の受験対象となる者の遅刻・欠席は原則的に受験資格を得られません。やむを得ない欠席・遅刻について事前にわかるものは相談して下さい。尚、欠席した場合レポートを代替として提出させることがあります。

テキスト

日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門テキスト⑥予防とコンディショニング

参考文献

適宜、指示する。

研究室

診療・研究棟3階311研究室（内田）

診療・研究棟3階教員室（寺岡）

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A412011 |
| 講義名 | 臨床医学Ⅰ（医学総論） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 1時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2103 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 近藤 哲哉 | 指定なし |

担当教員

近藤哲哉

講義の目的

病歴聴取（問診）、身体所見の診察、検査診断→患者の全体像を把握し医師と適切に連携できる能力を養うこと。

到達目標

特殊な器具を使わずに診断を行う技術、医師への受診が必要な状態かの判断、緊急で受診する必要があるのかの判断、医師との連携、医師にも受診している患者の話す内容の理解。

授業計画表

授業計画

1. 歩行姿勢、顔貌、体格、頭蓋
2. 問診、呼吸、脈拍
3. 血圧、体温、意識、救急
4. 皮膚、浮腫、リンパ、弱者
5. 知能、感情、運動失調
6. 不随意運動、筋緊張、髄膜刺激症状
7. 上肢近位、上肢遠位、背部、腰下肢
8. 眼、耳
9. 鼻、口、顔面、脊髄
10. 感覚障害、頸部、胸部
11. 腹部、検査総論、検尿
12. 検便、血計検査、電解質検査、肝機能検査
13. 腎機能検査、感染症炎症検査、生化学その他、髄液検査
14. 生理学的検査、画像診断、心理検査
15. 治療総論、薬物、麻酔

成績の評価

4択問題の問題集を講義中に配ります。その選択肢を入れ換えた4択のマークシートの期末試験

の点数と、平常点を合計して、割以上なら合格です。
追再試験もマークシートで行います。

自己学習

講義の進行が遅いと感じる人は、プリントの表の下にある注釈を読んでください。
通学の電車内の時間も有効に使いましょう。

履修上の注意

プリントの、スクリーンに映っている部分よりも上下左右が見たい場合は、その方向を指差すジェスチャーで教えるか、090-2078-2292にCメールを送るか電話してください。画面をスクロールします。質問がある場合、挙手かCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

なし。

参考文献

なし。

オフィスアワー

水曜日午前中

研究室

診療研究棟303研究室

授業用E-mail

kondo0724538409@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A413011 |
| 講義名 | 臨床医学Ⅱ（外科系） |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2104 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 杉本 篤夫 | 指定なし |

講義の目的

鍼灸施術の適応となる例も多い整形外科学的疾患の知識を得る。また、医師の臨床的立場からのリハビリテーション医学を学ぶ。

到達目標

整形外科学的疾患の病態把握ができ、さらにリハビリテーション分野からのアプローチが理解できるようにする。

授業計画表

授業計画

1. 整形外科概論、関節・骨代謝性疾患、骨腫瘍、筋・腱疾患
2. 形態異常・脊髄疾患
3. 脊髄損傷・外傷・その他の整形外科疾患
4. リハビリテーション総説①
5. リハビリテーション総説②
6. 脳卒中・脊髄損傷・切断のリハビリテーション
7. 小児・骨関節疾患のリハビリテーション
8. 関節リウマチ・末梢神経のリハビリテーション
9. パーキンソン病・呼吸器・心疾患のリハビリテーション
10. 骨腫瘍について
11. 骨代謝疾患について
12. 課題学習・解説①
13. 課題学習・解説②
14. 課題学習・解説③
15. 総復習

成績の評価

定期試験期間中に実施するマークシート方式の学科試験。これは国家試験対策も兼ねている。

自己学習

授業の予習、復習もさることながら、整形外科領域の国家試験問題にもチャレンジする。

履修上の注意

今まで学修してきた、解剖学、生理学等を復習しておく。

テキスト

「臨床医学各論 第2版」(医歯薬出版株式会社) 東洋療法学校協会編
「リハビリテーション医学 第4版」(医歯薬出版株式会社) 東洋療法学校協会編
授業中に配るプリント等。

参考文献

必要があれば随時提示する。

オフィスアワー

金曜日：昼休み (12時～13時)

研究室

5号館7階C714研究室

授業用E-mail

sugimoto@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A414011 |
| 講義名 | 疼痛動作の運動学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 1 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 |
| 代表時限 | 4時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-3002 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 北川 洋志 | 指定なし |

担当教員

北川洋志

講義の目的

運動器は頻回使用(overuse)によって過敏化が生じ、更に刺激が加わる事で発痛する。本講義では、筋収縮など関節の運動に伴って発生する刺激を利用して、動作から発痛構造を推測していくための知識を身につける。

到達目標

「痛みの発生源を刺激すると発痛/疼痛増悪する」という原則に基づいて、解剖学的・運動学的な視点をもって発痛/疼痛増悪する動作を理解し、発痛構造を推測できるようになる。

授業計画表

授業計画

1. 疼痛動作の運動学概論
2. 股関節の運動学① (基礎)
3. 股関節の運動学② (応用)
4. 膝関節の運動学① (基礎)
5. 膝関節の運動学② (応用)
6. 足関節の運動学① (基礎)
7. 足関節の運動学② (応用)
8. 肩関節の運動学① (基礎)
9. 肩関節の運動学② (応用)
10. 肘関節の運動学① (基礎)
11. 肘関節の運動学② (応用)
12. 手関節の運動学① (基礎)
13. 手関節の運動学② (応用)
14. 体幹の運動学① (腰背部)
15. 体幹の運動学② (頭頸部)

成績の評価

70%

30%

期末試験 ・小テスト にて評価

自己学習

各関節の構造や動き、筋の起始・停止・作用を再度学習しておくこと。

履修上の注意

解剖学的な知識があることを前提に授業を進めていきますので、必ず復習をしておいてください。

テキスト

「解剖学 (第2版)」 (医歯薬出版)
河野邦雄、伊藤隆造、坂本裕和、前島徹、樋口桂 著

参考文献

適宜、講義中に紹介する。

オフィスアワー

水曜日 昼休み

研究室

診療・研究棟3階鍼灸教員室

授業用E-mail

kitagawa@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------------|
| 講義コード | 2A415011 |
| 講義名 | 臨床心理学 |
| (副題) | |
| 開講責任部署 | |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | |
| 基準単位数 | 2 |
| 時間 | 0.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 |
| 代表時限 | 3時限 |
| 科目分類・分野名 | 専門基礎 |
| 科目ナンバリング | A2-2111 |
| 対象学科・学年 | はり灸・スポーツトレーナー学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 伊東 弘美 | 指定なし |

担当教員

伊東 弘美

講義の目的

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

到達目標

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置く。

コミュニケーション及び心理検査については実習を含む。

授業計画表

授業計画

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

成績の評価

平常点 10%
90

レポート %

自己学習

”自分なら”の視点を持って受講することを期待します。

履修上の注意

毎回、出席票を配布します。

出席票には授業を受けての感想・質問も記入し、次回以降の理解の助けとなるよう活用します。

テキスト

授業時間内にプリント配布。

参考文献

「ナースのための心理学」(金子書房) 岡堂哲夫：編

「心とかかわる臨床心理」(ナカニシヤ出版) 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫：著